

道徳授業地区公開講座 4年生資料

1. 4年生の実態

低学年から中学年段階に上がるにつれて、次第に相手のことを想像できるようになり、相手の気持ちをより深く理解できるようになってきます。また、行動範囲が広がり、様々な人とのかかわりも増えてきます。「困っている人を助けるのは当たり前」という考え方をもっている一方で、「自分ではない誰かがやってくれるだろう」という気持ちもあり、その心の葛藤を自覚する発達段階でもあります。

2. 授業について

(1) 主題名「思いやりの輪【親切、思いやり】」

(2) 教材名「1まいの写真から」

2013年7月に埼玉県南浦和駅で撮影された1枚の写真から、思いやりや親切な行為について考える教材です。相手を思いやる親切な行為は、自分も相手も温かい気持ちになり、お互いの心をつなぐものです。写真を例に、支え合い、助け合いによって社会が成り立っていることに気付かせ、思いやりの心の大切さについて、自己や自分の生活を見つめながら考えさせていきます。

(3) ねらい

力を合わせて電車を押した乗客たちの思いについて考えることを通して、思いやりや親切のよさを感じ取り、思いやりの心をもち、相手の立場に立って進んで親切にしようとする道徳的実践意欲を培う。

(4) 期待する児童の姿

- ・人を助けるために、力を合わせているときの乗客の気持ちについて活発に意見交流する。
- ・相手の立場に立って親切にした経験や、そのときの気持ちを振り返り、道徳ノートに書く。

3. 家庭でも考えよう

学級内や学校内では、友達と気持ちのよい毎日を過ごすために、相手を思いやり、協力し合って行動する子どもたちです。では、もう少し世界を広げてみると、どうでしょうか。公共の場所に出かけたとき、初めての人たちと行動するとき、自分のことしか考えていなかったり、人任せにしていたりすることはありませんか。普段、ありのままの子どもたちと過ごす保護者の方々だからこそ、気付くことがあるのではないかと思います。ぜひ、ご家庭で、思いやりの心や親切な行動について、話し合ってみてください。